

大人が絵本を 第31回 ことば遊び



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

日本語のおもしろさ発見

「おおきなモモンガどんぶらこ」¹⁾

川で洗濯をしているおばあさんのところに、モモンガが覆いかぶさった桃が流れてくる絵の下に書かれたことばで、絵本『だじゃれどうぶつえん』のひとページです。



『だじゃれどうぶつえん』
中川ひろたか 文 高島純 絵
(絵本館)



小学生はだじゃれが大好きです。それなら「おやじに任せて」という声が聞こえてきそうですが、「だじゃれ」と「おやじギャグ」では笑いを誘う冗談として同じでも、その質が違うのです。

子どもたちは、なかでも男の子は絵本の中のだじゃれを声に出して読み上げては、友だち同士で笑いを共有したり、大人に向かって読んで、楽しみの共感を求めたりします。そして、誰に言われなくても自ら創作しただじゃれを、自発的に、得意げな顔で発表し始めるのです。自負できる作品を思いつくと、連呼が始まります。大人の好反応を期待しての行動なのですが、大人が笑いで返すと嬉しくてますます繰り返したり、新ネタを持ってきたりと切りがありません。

このだじゃれ遊びは、紛れもない自己学習です。宿題でも、「勉強しなさい」と言われたわけでもなく、子どもたち自らが日本語のおもしろみに魅了され、創作意欲に駆られてことばを突き詰めているのです。ことばを思考し創作して、大いに笑って学べ

る遊び性をもつ日本語の素晴らしさです。

楽しさひろがることば遊び絵本

だじゃれのようにことばで遊ぶことを「ことば遊び」といい、ほかにも、誰もになじみのある、なぞなぞ、しりとり、さかさことば、早口ことばなど子どもたちが大好きなものばかりです。この遊びは古来より存在し、「なぞ」「判じ物」「回文」「倒言」「アナグラム」などの種類が文学史上でも残されていて、「なぞ」の古い例は平安時代中期の『枕草子』第147段に見られます²⁾。

古来より楽しまれてきた奥の深い日本語のことば遊びは、絵本もさまざまに出版されています。1988年に『ぐりとぐら』の生みの親が出版し、その「ぐりとぐら」も登場する『なぞなぞえほん』(全3巻)、「11ぴきねこ」の馬場のぼる氏が1978年に出版した『ぶたたぬききつねねこ』はタイトルだけで、しりとり絵本だとわかります。2000年に発行された『まさかさかさま』は当時の小学生たちに、さかさことば(回文)の楽しさを伝え広めて、以後、だじゃれに並んで小学生のことば遊びの上位にいます。だじゃれブームは、1990年発行の『だじゃれどうぶつえん』が火付け役で、同「だじゃれえほん」シリーズは現在も人気は健在です。今では、作者の中川ひろたか氏が発起し主催する「D1だじゃれグランプリ」³⁾なるものが全国的に開催されるほどなのです。

また、ことばの「へんしん」遊びは、2002年に刊行された絵本『へんしんトンネル』(あきやただし作)が発端となり、ブームが到来しました。日本語は同じ単語を連続して言い続けると、語頭と語尾の境目があいまいになって別の単語に変化して聞こえることがあります。その日本語の特性を活かしたこと

手にするときは！

絵本の魅力 その1

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

ば遊びが「へんしん」で、単純明快かつ、作者のイラストがさらに笑いを誘う絵本です。



『へんしんトンネル』
あきやま ただし 作・絵
(金の星社)



現在までに続作が14作続き、そのテーマも「トイレ」「マラソン」「オバケ」と多用で、第1作目発行から15年経った今の幼稚園児、小学生と、大人にも大うけされている大人気シリーズです。作者のライフワークのように、毎年新たなテーマの「へんしん」絵本を手掛けている中、2014年には『かえってきたへんしんトンネル』が発行され、原点に戻った『へんしんトンネル』がパワーアップして帰ってきました。

高度な遊びか、つまらない遊びか「だじゃれ」

ことば遊び絵本は、声に出して遊んでいるうちに語彙を豊富にしてくれます。音読することで、ことばの響きやリズムをユーモアいっぱいを楽しめ、そして日本語の良さと魅力を体感することができるのです。ことば遊び絵本にも、遊び方に応じて適した年齢があります。「小学生はだじゃれが大好き」と言いましたが、発達段階からみて、だじゃれを純粋に心底、楽しめる時期が小学生なのです。

だじゃれは、同じ音やとてもよく似た音をもつことばをかけたり、ひとつのことばをふたつに切り、別の意味をもたせてからつなげて文にすることば遊び⁴⁾ですから、未就学児では、ことばを十分に楽し

む語彙も言語能力も備えられていませんので、その魅力に深く迫るには、少々、早過ぎます。国語の学習過程にいて、いろいろなことばをどんどん覚えていく小学校の、特に低学年の児童にとって、同じ音で違う意味をもつことばや同意語があるという発見は新鮮であり、驚き、それを獲得した優越感でいっぱいになるのです。

だじゃれのもととは、「しゃれ」といわれる高度なもので、「気のきいたことば」という意味から、その人の知識と教養を示すと日本では昔からさかんに行われてきましたが、やがて「しゃれ」と呼べるほどの知識もいらない、音の感じがおもしろいことば遊びには「つまらない」という意味の「駄」をつけて「だじゃれ」といわれるようになりました⁴⁾。しかし、日本語研究の第一人者である金田一秀穂氏は、「深い意味を考えて創られただじゃれは、言う人はもちろん、聞く人にも知識が必要」で「深い意味をもつものであれば、だじゃれも高度なことば遊び⁴⁾」と言います。だじゃれは日本語の持つ音の響きや仕組みを理解した上で成り立つ知的な冗談で、ことばの感覚を豊かにする教養を持つ遊びと言えるでしょう。

一方で、広辞苑によるおやじギャグとは「年配の男性が口にする、時代感覚からずれた面白くない冗談や洒落」⁵⁾とあります。だじゃれとおやじギャグには共通性も多いのですが、ギャグの意味からみると「本筋の間に挟んで笑わせる場当たりの文句やしぐさ」⁵⁾には教養を必要としません。言語能力を備えていなければ成り立たないだじゃれは、現代においても、その人の知識と教養を示すものであるから、両者に質の違いがあると述べたのです。

「モモンガ」と「桃(ん)が」を結びつけ、しかも「が」を鼻濁音で発音する高度な技など、なかなか思



いくつかのものではありません。動物の名前と同じ音で、違う意味のものやことばを集めた『だじゃれどうぶつえん』の「だじゃれえほん」シリーズは、「すいぞくかん」「しょくぶつえん」「レストラン」「オリンピック」と続きます。ことばのおもしろさだけで十分、笑えるのですが、ことば遊びはもちろん、絵が表現する状況が笑い効果を倍増させるだじゃれ絵本は、子どもだけでなく大人の心と脳にも大きな刺激を与えてくれ、笑いが優しい気持ちをもたらしてくれます。オリンピックイヤーに向けて、『だじゃれオリンピック』でことば遊びはいかがでしょうか。

はじめての「しりとり絵本」

小学生がだじゃれで語彙力を付けていくように、未就学児の語彙力を高めることば遊びは、しりとりです。大人とのしりとりや、しりとり絵本遊びは、普段使っていることばだけでなく、それまで知らなかった新しいことばと出会う機会が多く生まれます。新しいことばを知った子どもたちはどんどん吸収して、日常生活での語彙数も増えていきます。また、いろいろなことばの持つ音の仕組みを理解する上でも役立つ遊びです。

しりとり絵本の走りである『ぶたたぬききつねねこ』はタイトルどおり、簡単なことばのしりとりが、その生きものや道具の絵と共に続いていくので、3歳くらいから初めての「しりとり」遊びにおすすめです。「しりとり」遊びのルールを小さな子にわかりやすく説明した絵本でもあり、日本に絵本ブームが到来した1970年代に、物語ではない、ことば遊びの楽しみを切り拓いた画期的な絵本といえます。

しりとりは、ことばをつなぎ合わせていくだけの単純な遊びではなく、ものの名称や単語、身の回りやお出かけ先で直接、目にするものと、図鑑などで間接的に出会う生きものやことがらを想像しながらことばにし、確認して知識として追加しつつ、語彙力を高める遊びです。道具がなくても、いつでもど

こでも手軽に、子どもの退屈しのぎのできる遊びですが、これが絵本となると、未知のものや名前と出会う機会が断然と増えますし、未知のものや形の姿を絵が示しているため、認識するにも獲得するにも近道となります。

しりとり絵本ステップアップ

はじめてのしりとり絵本を十分に楽しんだ次には、しりとりでお散歩はいかがでしょう。ことばの難易度があがる『しりとりさんぽ』（石津ちひろ作）は、4、5歳くらいからが対象で、発達に応じたしりとり絵本のステップアップとなります。



『しりとりさんぽ』
石津ちひろ 作
壁谷芙扶 絵
(小学館)



ただ単に単語を並べていくのではなく、ストーリーの中にしりとりことばを挟み込んでいく展開で、子どもたちがお散歩中に出会う物や出来事、人物などを「ひろいうみ」「みどりのき」「きいろいじてんしゃ」などと形容も挟んで、しりとりして行くのです。ですから、単語だけでなく物事を形容する表現方法も身に付きます。「えがおのあかちゃん」で落とした最後には、もう一度、しりとりで使ったことばだけをつなげて振り返るページもあり、それがしりとりことばの羅列といったものではなく、文章仕立の中にわかりやすく入れ込んでいる表現がまた斬新です。ストーリーに気を取られがちな子にも、ことばの確認ができます。『しりとりさんぽ』で遊ぶと、きっと親子でしりとり散歩をしたくなることでしょう。

歯科医院では、診療中の子どもたちと「歯医者さんしりとり散歩」など、いかがでしょう。まず、『しりとりさんぽ』を読みあってイメージにつなげ、興味を高めてから、院内にある目につく物だけでしりとりです。子どもたちとユニットでの時間を楽しく過ごしてもらいたいですし、口腔の部位や、歯みがきのやり方などを題材にして、歯の知識習得につなげてみるのも楽しそうです。もちろん、歯科衛生士や歯科医師のサポートが必要で、ヒントを簡単にしたり、小学生には難しくしたり変化をつけることも楽しさのひとつになります。子どもだけでなく、チェアサイドにいる保護者の方々が加わってくれると歯科医院しりとりも、より充実した時間となるのではないのでしょうか。

『しりとりさんぽ』の作者である石津ちひろ氏は、『しりとりあそびえほん』の他にも、なぞなぞ、回文などのことば遊び絵本を数多く生み出している「ことば遊びの達人」です。石津氏は「ことばあそびには、声に出してだれかとコミュニケーションをとるたのしみがある」として、「子ども同士でたのしむのもいいけれど、世代を超えたコミュニケーションの触媒になればうれしい」と語っています⁶⁾。ことば遊び絵本は、日本語力を高めるだけでなく、人と人とを結ぶコミュニケーションツールでもあるのです。



絵本で、大人の脳を活性化

ことば遊び絵本のいずれにも共通することは、ことばと絵が融合することでユーモア性を高め、絵本のもつ特性がことば遊びの楽しさとおもしろさを引き立たせていることです。ことばの遊びなのですが、絵本による絵の要素は重要で、子どもにとって、物やことからの確認と認識、それにイメージの拡大になくはならないと言えるでしょう。それは大人も同様で、生活の中に笑いを取り入れることでリラックスを生むだけでなく、年輪を重ねた脳と

心を柔軟にしてくれるのではないのでしょうか。

ことば遊びの達人の石津氏が、ことば遊びを生み出す方法は、「考えてつくる」というより「ひらめく」のだそうで、お休みしている脳をトントンとたたいて、全開にするイメージではじめるそうです⁶⁾。さあ、大人の皆様、脳をトントンとたたいて全開にしてみてください。子どもとことば遊びこそ、大人の脳を活性化させてくれることでしょう。



『しりとりあそびえほん』
石津ちひろ 作 荒井良二 絵
(のら書店)



文献

- 1) 中川ひろたか 文, 高島純 絵: だじゃれどうぶつえん, 絵本館, 東京, 1999, p.12.
- 2) 小野恭靖: ことば遊びへの招待, 新典社, 東京, 2008, pp.5-44.
- 3) D1 だじゃれグランプリ公式サイト:
HP <http://d1dajaregrandprix.web.fc.com/>
- 4) 金田一秀穂監修: 早口ことば・しりとり・だじゃれ(日本語力をきたえることばあそび①), フレーベル館, 東京, 2011, pp.28-32.
- 5) 新村出: 広辞苑 第六版, 岩波書店, 東京, 2008, p.433
- 6) クレヨンハウス: クレヨンハウス 絵本スクール, クレヨンハウス, 東京, 2008, pp.42-43.

絵本

- 1) 中川李枝子 作, 山脇百合子 絵: なぞなぞえほん(全3巻), 福音館書店, 東京, 1988.
- 2) 馬場のぼる: ぶたたぬききつねねこ, こぐま社, 東京, 1978.
- 3) 伊藤文人: まさか さかさま, 新風舎, 2000.
- 4) あきやま ただし: へんしんトンネル, 金の星社, 東京, 2002.
- 5) あきやま ただし: かえってきたへんしんトンネル, 金の星社, 東京, 2014.
- 6) 中川ひろたか 文, 高島純 絵: だじゃれオリンピック, 絵本館, 東京, 2008.
- 7) 石津ちひろ 作, 壁谷美扶 絵: しりとりさんぽ, 小学館, 東京, 2013.
- 8) 石津ちひろ 作, 荒井良二 絵: しりとりあそびえほん, のら書店, 東京, 2002.